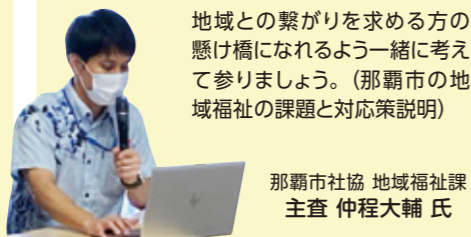


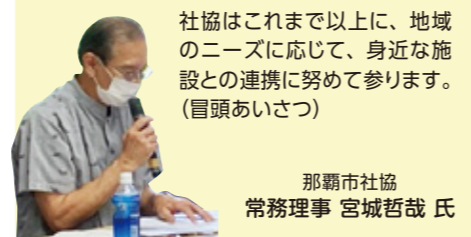
今一度、各法人等の役員間で地域における公益的な取り組みについて共通理解を図っていただきたい。(本事業の趣旨説明)

沖縄県社協 地域福祉部主任 大城利公氏



地域との繋がりを求める方の懸け橋になれるよう一緒に考えて参りましょう。(那覇市の地域福祉の課題と対応策説明)

那覇市社協 地域福祉課主査 仲程大輔氏



社協はこれまで以上に、地域のニーズに応じて、身近な施設との連携に努めて参ります。(冒頭あいさつ)

那覇市社協 常務理事 宮城哲哉氏

## 「福祉のお仕事講話」

去る5月14日(金)石嶺中学校1学年(5クラス)生徒への福祉講話が開催されました。

講師は、ちゅいネットなのは構成施設、首里地区高齢者施設から、ゆうなの会の法人事務局次長の金城満様が、総合学習の一環として「高齢者福祉施設のお仕事」と題してお話をいただきました。自分の想いを上手く伝えられない認知症の方への理解と接し方や、一つの施設に、看護師、介護士、リハビリ職員、相談員、事務員、栄養士、調理員など沢山の職種で成り立っていること、その資格取得に向けて助言されました。生徒は実際におじいちゃん、おばあちゃんのことを思い浮かべながら、多くの質問がありました。「介護の仕事でお休みはありますか?」(勿論、施設は交代勤務が多いです)「お年寄りと接しているときに心がけることは?」(同じ目線に視線を合わせて、ゆっくりと丁寧にお話する)「福祉の仕事はいつから?」(遠く聖徳太子の時代から)「介護のやりがいとは?」(関わることで喜んでもらえること)と熱心に聞き入りワークシートをいっぱい埋めていました。

那覇市社協ではボランティアセンターを通して学校側からの依頼に随時応じています、近隣の施設が身近に感じてもらえるよう今後とも社会福祉施設と連携して福祉教育の需給調整に邁進して参ります。



ゆうなの会法人 事務局次長金城満氏

金城さんに質問!!



熱心に聞き入る石嶺中学校1学年生徒



## 那覇市内の社会福祉法人等施設から多くの寄贈を頂きました

那覇市内の社会福祉施設等から多くの寄贈を頂き本当にありがとうございました。早速、関係機関を通して生活困窮世帯や、子ども食堂等へ直接届けられます。那覇市内の社会福祉施設の皆様におかれましては、ちゅいネットなのは食料提供(フードドライブ運動)について引き続きご支援をお願い致します。



相談支援センターテイクオフ

社会福祉法人ゆうなの会

(3月1日~5月31日現在) 合計798点

- |                          |                           |
|--------------------------|---------------------------|
| 1 就労支援サービス株式会社 代表 大畑昭康   | 6 沖縄中央福祉会彩風の杜なのは 代表 安里富士子 |
| 2 小規模多機能ホーム安岡 代表 長堂和夫    | 7 ゆうなの会 代表 神谷幸枝           |
| 3 就労支援センターふくぎ 代表 国吉正人    | 8 からし種の会 代表 棚原信子          |
| 4 アルプスセンター 代表 岡田拓也       | 9 相談支援センターテイクオフ 代表 佐藤誠    |
| 5 障害者就労支援センターさわやか 代表 高嶺豊 | 10 そてつのか 代表 仲真良勝          |

## フードドライブ(食料提供)運動のご案内

- 募集期間** 令和3年(2021年)3月1日(月)~随時受付
- 募集内容** □米(2019年度、2020年度、2021年度米) □缶詰 □レトルト食品 □カップ麺 □防災品 □お菓子  
※全て未開封、賞味期限3か月以上あるもの ※特にお米の支援ニーズが多くなっています
- 受渡場所** 那覇市社会福祉協議会(那覇市総合福祉センター)tel.098-857-7766 担当:山城章

事前に下記の内容でメールまたはFAXをお願いします  
那覇市社会福祉協議会へ ○月○日 時間帯(午前・午後/○時)頃に届けます。

fax 098-857-6052 mail 1101tyui@nahasyakyo.org

届け先/那覇市社会福祉協議会(那覇市総合福祉センター) 住所/那覇市金城 3-5-4

# なは地域貢献便り7月

「なは地域貢献便り」は、那覇市内の社会福祉法人等施設が、地域の応援団として取り組む情報誌です。

令和3年度第1回社会福祉法人等施設連絡会(小禄地区)が5月24日に開催され小禄地区7法人の施設から活発な意見交換が組み交わされました。

### 第1回 小禄地区

- |                     |                  |                  |
|---------------------|------------------|------------------|
| ①(社福)ペリー福祉会(保育)     | ②(社福)千草福祉会(保育)   | ③(社福)那覇垣花福祉会(保育) |
| ④(社福)ニライカナイ(障がい・児童) | ⑤(社福)沖縄にじの会(高齢)  | ⑥(医療)好縁会(高齢)     |
| ⑦(有限)百栄(高齢)         | ⑧(社福)那覇市社協(地域福祉) |                  |



①ペリー保育園 園長 賀数博氏

#### 1. 地域で貢献していること

- ①コロナの影響前・子育て応援デー入園前の子どもに親子で保育園を体験してもらい・うるく童まつりへ子どもたちの出演
- ・地元自治会、老健施設の敬老会などへ子どもたちの出演
- ②コロナ禍における活動
- ・防災に強い保育施設づくり、防災備蓄倉庫を整備し万一の時に子供の目線に合わせた地域防災拠点を目指す



ペリー保育園 防災備蓄庫

#### 2. 地域で今後やってみたい・協力出来る事

- ①コロナ終息後
- ・地域を交えた平和教育:奥武山公園内、島田顕彰碑前にて琉舞奉納
- ・当施設借地(ペリーファーム)への畑づくりと地域コミュニケーションの場づくり
- ・自治会と情報共有し地域の実情に合った活動を意識していきたい。



④ニライカナイ 事務局長 豊村英氏

#### 1. 地域で貢献していること

- ①コロナの影響前・事業所周辺の清掃。ゴミ拾い
- ②コロナ禍においても行っている活動・子ども食堂へのパン無料提供
- ・地域でなじみない子どもたちの受け入れを積極的に実施
- ・生活困窮世帯の親から子供の支援を受け入れ気になる世帯は、行政や民生委員へ繋いでいる

#### 2. 地域で今後やってみたい、協力できる事

- ダンス教室に地域の方を受け入れて利用者と地域の方と一緒に地域イベントに参加してみたい
- ・障害分野の相談に協力していきたい
- ・フードドライブのパンの寄付
- ・引きこもりの就労支援をしていきたい
- ・施設の場所の提供や交流をしたい
- ・福祉教育講話に参加可能・買い物支援などのお手伝いで車両の貸し出し



④のびっとセンター長 玉城恒氏



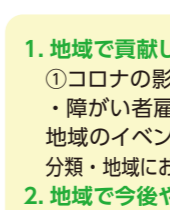
⑤特別養護老人ホームゆがふ苑 事務局長 山城楓氏 主任 玉城龍馬氏

#### 1. 地域で貢献していること

- ①コロナの影響前の活動・社福減免、地域のサークル活動へのホール貸出し
- ②コロナ禍における活動・社福減免・学生の実習受け入れは継続

#### 2. 地域で今後やってみたい・協力出来る事

- ①コロナ禍において行える活動
- ・フードドライブ運動
- ②コロナ終息後やってみたい活動
- ・地域防災活動に参加してみたい



②あやめ保育園 園長 金城祐佐氏

#### 1. 地域で貢献していること

- ①コロナの影響前
- ・障がい者雇用・シルバー人材センターの活用・地域のイベントに積極的に参加
- 分類・地域における子育て支援・居場所づくりへの取組
- ②地域で今後やってみたいこと・協力出来ること
- ・園児の散歩コースに見守りが必要な世帯の家の前を散歩し声掛け



③すがやま保育園 園長 新里順子氏

#### 1. 地域で貢献していること

- ①コロナの影響前・老人施設を訪問し、お年寄りとのふれあいや地域の花いっぱい運動に参加している。
- ②コロナ禍の活動
- ・園の行事がほとんど中止のため地域活動も行っていない。

#### 2. 地域で今後やってみたい・協力出来る事

- ①コロナ禍において
- ・出来る範囲で活動に参加したい。ひき続き地域の行事には協力する。
- ②コロナ終息後
- ・地域での活動や、関りが少ないので連絡会を機会に深めていきたい。
- ・避難訓練を地域の方と実施してみたい。



⑥看護小規模多機能型 小禄めぐみ 相談員 福里ひろみ氏

#### 1. 地域で貢献していること

- ①コロナの影響前・8月開所実績なし
- ②コロナ禍
- ・フレイル予防体操教室・人生相談センター(相続問題、高齢者の断捨離等)

#### 2. 地域で今後やってみたい・協力出来る事

- ①コロナ禍・暮らしの保健室
- ②コロナ終息後
- ・地域の困りごと解決隊(特に高齢者)・自立~要支援者(介護保険利用外)へのおせっかい支援隊(買い物、おそうじ電球取り換えなどの支援)
- ・当理事長、下山直登による認知症講演会を地域向け実施
- ・ご近所の高齢者宅を顔なじみとなり、ゆんたくの参加、草木の株分けなどの交流行っている。
- ・DVによる緊急受け入れの実績あり



⑦認知症対応型共同生活介護グループホームつぼみ 管理者 山城正子氏

#### 1. 地域で貢献していること

- ①コロナの影響前・包括と共に買い物支援を行っていました。
- ②コロナ禍の現在・活動は行っていません。

#### 2. 地域で今後やってみたい・協力出来る事

- ①コロナ終息に向けて
- ・包括と共に買い物支援を継続したい。
- ・地域の方を巻き込んだ防災活動

小禄地区連絡会報告 裏面ページへ続く





# 地域から必要とされる「彩風の杜なは」を目指して



社会福祉法人 沖縄中央福祉会 彩風の杜なは 係長 國吉俊祐 氏

## はじめに 施設紹介 (事業内容・事業方針・理念等)

社会福祉法人沖縄中央福祉会の基本理念として「明朗」笑顔を忘れず「協調」心合わせて「活発」いきいきと励む「利用者」を我が身と接するべし」のスローガンを掲げ、地域の方々と共に安心して支え合える共生社会を目指し信頼される事業運営に努めています。

当法人の地域交流として、毎年9月頃に地域交流納涼祭を開催し、利用者、利用者家族、地域住民や地域各種団体等を招き交流を図り、運営に関しては地域婦人会や民生委員、介護実習で関わった福祉専門学生や大学生ボランティア等の協力のもと実施しています。

地域貢献活動として、各拠点(北中城村・宜野湾市・那覇市)に相談窓口を設け、相談内容等に応じて職員へ募り提供できる食品を集め、子ども支援団体・生活困窮者への食糧支援や地域独居高齢者支援として自宅の軒柱腐食の修繕作業を実施(日曜大工程度で勤務員対応)地域交流も兼ねて清掃活動(クリーンアップ大作戦)へも毎年参加しています。

福祉車両バス無料貸し出し(車両のみ)も行っており、地域の子ども会やクラブ団体、青年会活動等の利用に繋がっています。

又、令和3年1月より買い物に行く移動手段にお困りの方(高齢者)を対象に移動支援(送迎)、介護予防の促進・通いの場を増やす目的で公民館等活用しリハビリ教室をスタートしました。



納涼祭



クリーンアップ大作戦



リハビリ教室

## 彩風の杜なはでの活動として

生活介護センター彩風の杜なはでの活動に関しては、台風時災害等の障がい独居者の避難受け入れを実施しています。今後は那覇地区においても移動支援、地域関係者ネットワークづくりや地域住民との関わりを積極的に図り、地域が必要としている支援を見出し取り組んでいきたいと考えています。

## 災害時福祉避難所とは

平成26年11月 那覇市と協定締結

福祉避難所とは一般の避難所(公園・運動場・学校・体育館等)での生活に困難が生じることが予想される要配慮者(高齢者・障がいのある方・乳幼児その他特に配慮を要する者等)を滞在させることを想定した避難場所です。基本的な考えとしては、市から二次避難場所として指定、又は協定締結している施設に要配慮者が受け入れ可能か確認の上で、二次避難所の開設が要請されることになります。

現時点では、市から「彩風の杜なは」への福祉避難所開設要請は一度もありませんが、有事の際にできるだけ迅速に対応できるように事前準備しておきたいものや受け入れ時の職員体制・環境整備は確認しておく必要があります。

県内では毎年のように台風による被害によって日常生活に支障がでる方(独居高齢者・障がい者)が大勢いらっしゃると思います。彩風の杜なはでは主に生活介護利用者が受け入れの対象になっていますが、事前にご相談頂ければ各関係機関・利用者・ご家族へ自宅環境や自宅での支援内容(居宅サービス等)を確認し、避難受け入れした際には安心して過ごして頂けるように支援・対応を心掛けています。



1F ホール



静養室

## おわりに ~今後の目標~

新型コロナウイルス感染状況の終息がまだまだ見えない中で、1年余り続く制限を伴った窮屈な生活、大きなストレスや不安を抱え過ごす日常でコロナ禍以前の生活を取り戻すには、早急に求められているワクチン接種や継続実施してきた感染予防対策、これまで以上の意識改革が重要だと強く感じました。

今後の「ちゅいネットなは」地域貢献としての取組ではコロナ禍であっても地域の皆様が安心して生活を送り、幸せを多く感じられるような仕組みづくりができたならと考えています。各関係機関・構成施設の皆様と協働し、地域の困りごと・課題解決へ向けて積極的に取組み、地域から必要とされる彩風の杜なはを目標としていきたいと思っています。



彩風の杜なはの職員

# うるま福祉会の夜間保育等の実践を通して



社会福祉法人うるま福祉会 理事長 高良桂子 氏

## うるま福祉会の沿革

高度成長期の真っ只中、無認可保育園を立ち上げて半世紀になります。

当時は、労働力不足で女性の社会進出に大きな期待が寄せられていました。国際大通りや平和通りに隣接している当園は、幼児を抱えて働く若い母親達の救世の場となりました。児童の健全育成は児童福祉法に則った公的施設としての位置づけで、人的、物的環境を整えた中で育てていくことが望ましいとの強い思いから、1980年に法人を設立し、翌年認可園としてスタートいたしました。初代の理事長は、日頃から「地域のために寄与したい」という思いを口にしていたので、叙勲を受けたことが契機となり法人化が実現いたしました。理事長の思いを受け、地域のニーズに応えるべく、延長保育、一時保育、休日保育も実施いたしました。

1997年太田県政の頃、第三次産業の盛んな沖縄に夜間保育園が必要とのことで、市を通して打診があり県のモデル事業として、夜間保育に取り組みました。最初10名程度ということでしたが、近郊の市町村からの利用者もあり、3年目には23名という人数になり、その実績をふまえて老朽化した園舎を建て替え2000年4月昼夜併設の保育園がスタートしました。



お店屋さんごっこ



お誕生日会



四歳児リレー

## 夜間保育の経過

長年、保育事業を続けていく中、時の流れと共に保護者の就業形態や子育てに対する意識も変わり、子の育ち方も大きく変化してきました。生活が豊かになり物が増えてきたのに心がわびしくなってきたようにも感じられます。民生委員児童委員を18年経験した中で、社会の歪のなか生きづらさを感じている家庭があることに気づきました。昔は、近隣の人達が「何しているの」「どこへ行くの」と気軽に言葉をかけながら、温かく見守るという姿がありました。そんなコミュニティの中で、どの子どもみんな大切な子として、優しい眼差しが注がれ認められながら立派に育ってきました。

## 夜間の子どもの居場所「たまっこやかん誕生」

夜間保育園を手掛けて21年目になりますが、ここ2~3年定員割れが続いています。飲食関係に従事しておられる保護者が多い事もありますが、三歳になると昼間の方に移って行かれる方もあります。夕食の喫食にゆとりが出て、これを活用したく、夜、一人寂しく過ごしている子ども達に、夕食の提供ができないかと思い、協働によるまちづくり推進協議会の銘苅会長や市社協の「糸」の城間さんにご相談しました。早速、子どもの居場所を見学させていただいたり、集会に参加する機会も与えて下さった事で、夜間の子どもの居場所の必要性を感じました。夜の居場所があることで、子どもの安全確認と孤独感が解消され、また、小さい子の世話をしたり、保育士から生活指導を受けながら、色々な経験を積み、自信を得ることで自己肯定感も高められるという効果をねらいました。そして、2019年2月、「たまっこやかん」の誕生となりました。

予想より利用者は少なかったのですが、やんちゃ盛りの子ども達は、夜間の園児達と楽しくお食事をしたり、入浴後は、自分の好きな遊びを楽しんだりと有意義な時間を過ごしていました。

## コロナ禍の終息に向けて

昨年の一月末頃から、新型コロナウイルスが流行し、感染予防のため自粛中です。その間、利用したいとの問い合わせは数件ありますが、今しばらく実施を見合わせているところです。

今、コロナ禍により、生活様式が大きく変化している状況の中、疲弊しているご家庭も多々あると思います。だから、早く子ども達の受け入れをせねばならないと思いつつあと一歩踏み出せずにいます。ワクチン接種への期待を持ちながら、一日でも早い終息を願うばかりです。



シャボン玉遊び



緑ヶ丘公園で